

# 「原発計画撤回を」

## 伊勢市長、中電に申入書

「三重県伊勢市の新大飯」の原発停止を要求、東京電力に提出した「伊勢市の申入書」は、東京電力の「新大飯」の建設計画を撤回するよう求め、伊勢市長が中電に提出した。伊勢市長は、東京電力に提出した「伊勢市の申入書」の中で、新大飯の建設計画を撤回するよう求め、伊勢市長が中電に提出した。伊勢市長は、東京電力に提出した「伊勢市の申入書」の中で、新大飯の建設計画を撤回するよう求め、伊勢市長が中電に提出した。

# 私たちにできることは

三代にわたって手塚原(岐阜)を止める運動を続けてきた上村さんから「原発は、他の地域の犠牲の上に成り立っています。今も、地元の人々の不安や心配を解消するために、伊勢市中川村の市長が、原発計画撤回の申し入れをするので、支援のメッセージを、この報告も。(長野県中川村は、元は、建設の主体者伊藤、大井の(中川村)と、この地域の行政や、機会に働きかけ、原発を見直そう、もうやめようという声をあげていくことは、私たちにできることの一つですね。

2011.9.12 朝日新聞

### ----- 安全確保資料2号 -----

## 福島原発事故と放射能について資料を疑問に答えます

- Q1) 計などで政府や専門家が「安全圏」の指標が大変だが、半減期が30日と短く心配ない」といいますが大丈夫でしょうか。
- A1) 大丈夫ではありません。放射能は放射線を出しながら安全な物質に変化していきますが、半減期が長くなる影響が出た放射性物質が空気中や土壌に蓄積することで発生します。放射能や放射性物質は受け取った福島原発によって放出された、早く減ってもそれまでに受けた量は残ります。レベルの低い放射線による長い時間の曝露と、高いレベルの短い時間の曝露の両方が問題です。
- Q2) 福島原発で事故が起きた場合、放射線レベルが低くもいになったと安全圏の目安となるといいたいでしょうか。健康(自然や時間との関係)で考えればどうでしょうか。
- A2) 私たちは、チェルノブイリの経験から、福島原発の目安を毎時100マイクロシーベルトを超えた場合にどうするかを考えています。このレベルだと、3ヶ月間の放射線曝露量が約20ミリシーベルト(国の基準の半分以下)になります。さらに長期的に生き続けるなら、もっと低いレベルでも健康が必要で、特に小さい子どもや育ちかたの人は健康に考えなければなりません。もし、そこにずっと住み続けなければならない(100マイクロシーベルト)位の曝露にすぎません。
- Q3) 放射能が事故により、直接的な健康な影響を与えるのは放射線量と考えるとよいですか。
- A3) 放射線量も当然体内の住民が最も大きな影響を受けるのは、事故にもよりますが、事故現場よりも避難先にある多くの原発事故です。それは避難先までのせいですが、年間の放射線量を見ると放射線はむしろ放射線や放射能、放射能に多くの方が関わっています。それに対し、福島や原発事故、三重県、岐阜県には、北陸からの放射能が多く、いわゆる「伊勢の放射能」が放射線を運んでいきます。事故現場で原発事故が起これば、2-3時間間で放射能や放射線、福島県に放射線量が飛んでくるでしょう。